

令和 5 年 6 月 22 日現在

機関番号：17301

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2020～2022

課題番号：20K02795

研究課題名(和文) 小学校外国語科の高度化をめざした海外の学校との遠隔授業に必要な授業スキルの明確化

研究課題名(英文) Clarification of teaching skills for distance learning with overseas schools for the advancement of elementary school foreign language classes.

研究代表者

倉田 伸 (KURATA, Shin)

長崎大学・教育学部・准教授

研究者番号：80713205

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、小学校外国語科における海外の学校との効果的な遠隔授業に必要な授業スキルを明らかにするため、海外の学校との遠隔授業の事例と授業スキルに関する調査を行い、必要な授業スキルをリスト化・ルーブリック化した。まず、リアルタイムの遠隔授業において、6観点22項目の工夫点・留意点を抽出し、リスト化した。また、授業中の「コミュニケーション」と「フィードバック」に焦点を当て、6つのスキルを整理した上でルーブリック化した。さらに、ビデオレター制作活動に必要なスキルにおいて、2観点8項目の工夫点・留意点を抽出し、リスト化した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究のような、海外の学校との遠隔授業に必要な授業スキルをリスト化・ルーブリック化することで、児童の外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方の育成に必要な指導者の授業スキルを明確化できる。その他にも、中学校・高等学校での英語教育の高度化・中国語や韓国語などの英語以外の外国語教育の高度化への応用、さらには、今後の小学校外国語科の教科担任制導入へ向けた先行知見の1つとなる。

研究成果の概要(英文)：The purpose of the present study is to clarify the teaching skills necessary for effective remote teaching of English using ICT equipment to connect with elementary schools overseas. First, we conducted a survey on the case studies of English remote classes and teaching skills in overseas elementary schools, compiled a list of necessary teaching skills. Second, through English remote classes by real-time method, we compiled another distinctive list of innovations and points to keep in mind that consist of 6 perspectives and 22 details. Third, we also developed another distinctive rubric of 6 perspectives focusing on communicative interaction and feedback during the English remote classes. Furthermore, we compiled an available list of innovations and points to keep in mind that consist of 2 perspectives and 8 details, in order to improve the skills necessary for the production of video letters.

研究分野：小学校英語教育，教育工学

キーワード：小学校英語教育 遠隔授業 授業スキル 海外の学校

## 1. 研究開始当初の背景

近年、小学校英語教育において遠隔授業の実践事例が増えてきており、例えば、へき地の少人数学級同士の実践や海外の学校との実践である。海外の学校との遠隔授業は、海外で生活する子どもたちとリアルに対話ができるため、「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方」を児童に育ませる重要な学びの機会となる。小学校外国語科で遠隔授業ができる環境を整えば、海外の学校との効果的な遠隔授業の実践が期待される。よって、海外の学校との遠隔授業を効果的に実施できる小学校外国語科の指導者育成が急務である。しかし、海外の学校との遠隔授業を小学校外国語科で効果的に実践するための授業スキルに関する知見は未だ整理されていないのが現状である。

## 2. 研究の目的

海外の学校との遠隔授業という特殊な環境で指導者が効果的に小学校英語教育を展開するには、具体的な授業スキルを示すことが必要である。そこで、小学校外国語科において海外の学校との効果的な遠隔授業に必要な授業スキルを明確化し、遠隔授業スキルの具体的なリストや到達基準としてのルーブリックの開発を本研究の目的とした。そのために、英語を用いた海外の学校との遠隔授業の事例と授業スキルの調査・整理、小学校外国語科における海外の学校との遠隔授業に必要な授業スキルのリスト化、小学校外国語科における海外の学校との遠隔授業のための遠隔授業スキル到達基準としてのルーブリックの開発を行なった。

## 3. 研究の方法

英語を用いた海外の学校との遠隔授業の事例と授業スキルの調査のため、まずは、西洋と東洋の社会的・学術的变化研究 (East-West Studies) と遠隔教育 (distance learning) の知見を参考に授業スキルを検討し、インタビュー調査用の質問を作成した。そして、海外の学校との遠隔授業に必要な授業スキルを調査するため、実際に遠隔授業を実践した経験をもつ小学校教諭2名に対してインタビュー調査を行なった。なお、ここでの遠隔授業とは、同期・非同期の両方を含むものとした。

インタビュー調査結果の分析は、質的データ分析手法の SCAT(大谷 2019)で分析した。SCATは質的データを理論化できるため、調査対象者が少数数であるという本研究の特徴に適した分析手法であると判断し、採用した。

授業スキルのリスト化のため、SCATで作成した理論記述を英語教育・言語活動の観点を踏まえながら項目別に整理した。また、授業スキルのルーブリック化のため、同じく SCATで作成した理論記述を英語教育・言語活動の観点を踏まえながら基準を作成した。

## 4. 研究成果

### (1) 同期型の遠隔授業に必要な授業スキルのリスト化

小学校英語教育における海外の学校との同期型の遠隔授業に必要となる授業スキルとして、以下のように6つの観点から構造化されたチェックリストの形式で整理した。1つ目の観点は海外の学校との遠隔授業当日までの準備である「授業に対する企画力」としての授業スキル、2つ目の観点は海外の学校との遠隔授業に関する専門性である「内容に関する専門性」としての授業スキル、3つ目の観点は海外の学校との遠隔授業中の児童同士の対話を促す行動である「コミュニケーション能力」としての授業スキル、4つ目の観点は海外の学校との遠隔授業中の形成的評価に関する力である「フィードバック技術」としての授業スキル、5つ目の観点は海外の学校との遠隔授業中のデジタル情報発信に関する力である「学習内容の提示技術」としての授業スキル、6つ目の観点は海外の学校との遠隔授業後の評価に関する力である「評価技術」としての授業スキルである。

海外の学校との遠隔授業当日までの準備

- ・ 交流の目的・双方の文化・現在の学習段階など、早い段階で情報共有しているか。
  - ・ 児童は遠隔授業に対して十分に慣れているか。
  - ・ 双方の児童が興味を持てる題材か。
  - ・ 言葉(英語)以外の視覚的な教材を準備しているか。
  - ・ 児童をうまく動かす体制づくりは十分か。
- 海外の学校との遠隔授業に関する専門性
- ・ 遠隔授業に関する ICT の基礎的な知識や技能には自信があるか。

- ・遠隔授業で使用できそうなコンテンツを準備しているか。
- ・相手の学校や文化に関する情報について調べたか。
- ・英語が苦手である場合どうにかして意思疎通を図ろうとする心構えがあるか。
- 海外の学校との遠隔授業中の児童同士の対話を促す行動（コミュニケーション）
- ・教師自ら英語で話したり，答えたり，問いを投げかけたりしているか
- ・双方の児童が理解できる文法レベルに合わせて話しているか
- ・児童が自信や興味をもち，安心して自由に発言できる場面を作れているか
- ・事前に準備したテーマを会話に取り入れられているか。
- 海外の学校との遠隔授業中の形成的評価（フィードバック）
- ・児童の活動の良い面を常にフィードバックできているか
- ・児童が達成感を得られるようフォローできているか
- 海外の学校との遠隔授業中のデジタル情報発信方法
- ・視覚的な支援ができているか
- ・児童の発表がわかりやすく伝わるための指導ができているか
- ・情報発信する機器や方法は児童が十分に慣れているものか
- 海外の学校との遠隔授業後の評価
- ・児童の興味・関心について評価しているか。
- ・多面的な視点で評価しているか。
- ・事前の準備活動も含めて評価しているか。
- ・発音などの改善点はプラスのことに変えて伝えているか。

### （２）同期型の遠隔授業に必要な授業スキルのルーブリック化

上記の４（１）で示したチェックリストの中から，授業を実施している最中に必要となる授業スキルである のコミュニケーションと のフィードバックに焦点を当てて，以下の表のようにルーブリック化した。コミュニケーションに関しては４種類の授業スキル，フィードバックに関しては２種類の授業スキルを，レベル別に整理した評価の到達基準を開発した。

スキル	A	B	C
コミュニケーション	相手が発した英語を子どもたちが理解できるように，わかりやすい英語に言い換えて伝えることができる。	わかりやすい英語を用いて子どもたちに指示することができる	わかりやすい英語を用いることができない
	英語がどの程度伝わっているかを把握したうえで，ズレが生じた際に支援をすることができる。	英語がどの程度伝わっているか把握することができる。	英語がどの程度伝わっているか把握することができない。
	コミュニケーションのズレが生じても，イラストや情報を活用し間違いを補うことができる。	英語が伝わらなかった際に，もう一度挑戦させたり，言い換えて伝えたりすることができる。	コミュニケーションを成立させるための支援を行うことができない。
	状況に合わせて発表形式を変えたりフォーマットを例示したりすることができる。	状況に合わせて発表形式を変えることができる。	状況に合わせて発表形式を変えることができない。
フィードバック	英語での発話に対して適切なタイミングで，肯定的かつ具体的なフィードバックを行うことができる。	英語での発話に対して，適切なタイミングで肯定的なフィードバックを行うことができる。	英語での発話に対して適切なタイミングでフィードバックを行うことができない。
	英語を聞き取ったことに対して適切なタイミングで，肯定的かつ具体的なフィードバックを行うことができる。	英語を聞き取ったことに対して適切なタイミングで肯定的なフィードバックを行うことができる	英語を聞き取ったことに対して適切なタイミングでフィードバックを行うことができない

### （３）非同期型の遠隔授業に必要な授業スキルのリスト化

小学校英語教育における非同期型の遠隔授業に必要な授業スキルとして，以下のように２つの観点から構造化されたチェックリストの形式で整理した。なお，ここでの非同期型の遠隔授業とは，海外の子どもたちに対して英語による発表を撮影しビデオレターを制作する活動で

ある．1つ目の観点は子どもの英語スキル不足を補う3種類の授業スキル，2つ目の観点は撮影時の子どもの不安感を解消する5種類の授業スキルである．

子どもの英語スキル不足を補うための支援

- ・イラスト・写真・実物などの視覚的情報を使って発表させる．
- ・ジェスチャーや表情などの非言語情報を強調するように促す．
- ・子どもが間違った英語表現に対して正しい英語表現でリキャストする．

撮影時の子どもの不安感を解消する支援

- ・撮影のリテイクを許可する．
- ・発表する子どもの笑いを誘う．
- ・発表の順番を工夫する．
- ・待機中の子どもは適宜発表に対しリアクションするような状況を作る．
- ・子どもの発表に対して可能な限り称賛する．

#### (4) まとめと今後の展望

本研究では，小学校外国語科において海外の学校との効果的な遠隔授業に必要な授業スキルを，リスト化・ループリック化することにより明確化した．このことにより，児童の外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方の育成に必要な指導者の授業スキルを明確化できたといえる．また，中学校・高等学校での英語教育の高度化や英語以外の外国語教育の高度化への応用，更に小学校外国語科の教科担任制導入へ向けた知見になることが期待される．他方，今回提案した小学校英語教育における海外の学校との遠隔授業に必要な授業スキルを教員研修などに応用することが今後必要となる．実際に海外の学校との遠隔授業を試みようとする教師を対象とした調査・検討を行うことが今後の展望である．

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計9件（うち査読付論文 5件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 5件）

1. 著者名 倉田 伸、仲谷 佳恵、長濱 澄、藤木 卓、室田 真男	4. 巻 46
2. 論文標題 ビデオアノテーション模擬授業における教職志望学生の授業スキルの見直しによる学びの特徴	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 日本教育工学会論文誌	6. 最初と最後の頁 93-96
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.15077/jjet.s46049	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 倉田 伸、藤木 卓、室田 真男	4. 巻 46
2. 論文標題 ビデオアノテーションによる自他の意見比較から教職志望学生の授業スキルへの気づきに至るプロセスモデルの提案	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本教育工学会論文誌	6. 最初と最後の頁 35-48
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.15077/jjet.45066	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 鈴木章能	4. 巻 2
2. 論文標題 他人事(ひとごと)に終わらせない英語リーディング教材の用い方 エlegant・バリエーションを用いて他者理解の心と実践を自然で豊かな英語表現力と共に促進する	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 ヒューマニスティック英語教育研究会紀要	6. 最初と最後の頁 181-188
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 倉田伸、喜多伊吹、鈴木章能、中村典生、松元浩一	4. 巻 22
2. 論文標題 小学校英語教育における海外の学校との交流学習にむけたビデオレター制作活動への教師の支援に関する探索的研究	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 長崎大学教育学部教育実践研究紀要	6. 最初と最後の頁 (印刷中)
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Kurata Shin、Fujiki Takashi、Murota Masao	4. 巻 1
2. 論文標題 Development and Verification of a System to Support Cooperative Learning Based on Peer Review by Visual Video Annotation on Portable Mobile Device	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Information and Technology in Education and Learning	6. 最初と最後の頁 1-13
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.12937/itel.1.1.trans.p006	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 倉田伸、大山璃子、鈴木章能、中村典生、松元浩一	4. 巻 21
2. 論文標題 小学校英語教育における海外の学校との遠隔授業のためのチェックリストの開発	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 長崎大学教育学部教育実践研究紀要	6. 最初と最後の頁 55-62
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 鈴木 章能	4. 巻 56
2. 論文標題 遠隔教育という文脈での英語教育学再考に向けて オンライン、COIL、BEVI、そして協働	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 英語英文学論叢『片平』	6. 最初と最後の頁 115-133
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鈴木 章能	4. 巻 56
2. 論文標題 一人称のディストピア E. M.フォースターの「機械が止まる」をグローバル社会のパンデミック小説として読んでみる	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 英語英文学論叢『片平』	6. 最初と最後の頁 13-44
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 倉田伸	4. 巻 278号
2. 論文標題 海外の学校とつなぐ遠隔授業	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 学習情報研究通巻278号	6. 最初と最後の頁 42-45
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計2件 (うち招待講演 0件 / うち国際学会 1件)

1. 発表者名 倉田伸, 藤木卓, 室田真男
2. 発表標題 非同期型オンライン模擬授業における授業者・参観者の意見比較をととした教職志望学生の授業スキルへの気づきの有効性
3. 学会等名 日本教育工学会 2022年度春季全国大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Shin Kurata, Takashi Fujiki, Masao Murota
2. 発表標題 Video Annotation Tools to Support Peer Review Teaching Skills Improvement for Pre-service Teachers
3. 学会等名 6th International Conference on Education - Hawaii (国際学会)
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	松元 浩一  (MATSUMOTO Kouichi)  (20219497)	長崎大学・教育学部・教授    (17301)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	中村 典生  (NAKAMURA Norio)  (70285758)	長崎大学・教育学部・教授    (17301)	
研究分担者	鈴木 章能  (SUZUKI Akiyoshi)  (70350733)	長崎大学・教育学部・教授    (17301)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関